

# ArcGIS®

ArcGIS® Experience Builder:

Business Analyst ウィジェット  
プリセット モード チュートリアル

## 目次

第 1 章 チュートリアル概要 .....	3
はじめに .....	4
プリセット モード .....	4
シナリオ .....	4
第 2 章 Web マップの作成 .....	5
本章の目的 .....	6
ステップ 1: Map Viewer の起動 .....	6
ステップ 2: マップ レイヤーの追加 .....	8
ステップ 2-1: 指定緊急避難場所レイヤーの追加 .....	8
ステップ 2-2: 津波浸水想定レイヤーおよび洪水浸水想定区域レイヤーの追加 .....	11
ステップ 2-3: レイヤーの整理 .....	13
ステップ 3: Web マップの保存 .....	16
第 3 章 Web アプリの作成 .....	18
本章の目的 .....	19
ステップ 1: Web アプリの新規作成とマップ ウィジェットの編集 .....	19
ステップ 2: Business Analyst ウィジェットの追加 .....	21
ステップ 3: Web アプリの保存 .....	29
第 4 章 Web アプリの公開と表示 .....	30
本章の目的 .....	31
ステップ 1: Web アプリの公開と ArcGIS Experience Builder からの表示 .....	31
ステップ 2: ホーム画面から Web アプリを表示 .....	32
第 5 章 Web アプリの操作 .....	35
本章の目的 .....	36
ステップ 1: Web アプリの操作 .....	36

## アイコンの説明



ノート：特定のトピック、手順に関する追加の情報、例外事項や特記事項を示します。



ティップス：概念の理解や手順を実行するための簡単なヘルプです。



外部リソース：トピックに関する参考資料です。



# 1

## チュートリアル概要

### 概要

- はじめに
- プリセット モード

## はじめに

ArcGIS Experience Builder では、Business Analyst ウィジェットを使って「[インフォグラフィックス](#)」と呼ばれる動的な商圈レポートを任意の場所で行い、統計情報を把握することができます。

本チュートリアルでは、Business Analyst ウィジェットの「プリセット モード」の設定方法や実行方法をご紹介します。

## プリセット モード

プリセット モードは、Web マップに追加されたポイントデータや区画データを利用し、事前に設定したインフォグラフィックスを実行できるモードです。設定する方法について、以下のシナリオに沿って学習します。



Business Analyst ウィジェットには、プリセット モードのほかに、マップ上の選択地点や住所検索した地点から商圈を作成し、自由にインフォグラフィックスを実行できる ワークフロー モードも搭載されています。

## シナリオ

あなたは、北海道釧路市の防災課に所属しています。釧路市は、道東地域随一の都市でありながら、市街地の多くが洪水や津波のリスクにさらされています。災害の頻発化や激甚化が懸念される中、日ごろから発災時に避難所で発生するニーズを考慮し、事前準備を行う必要があります。ニーズを可視化し、さまざまな部署や取引先と共有するため、ArcGIS Experience Builder で Web アプリを作成します。

# 2

## Web マップの作成

### 概要

- 本章の目的
- Map Viewer の起動
- 指定緊急避難場所 レイヤーの追加
- 津波浸水想定 レイヤーおよび洪水浸水想定区域 レイヤーの追加
- レイヤーの整理
- Web マップの保存

## 本章の目的

ArcGIS Experience Builder で避難所や災害リスクのマップを表示するため、ArcGIS Online で Web マップを用意します。今回は、マップ、アプリ、データ レイヤーなど、世界中の ArcGIS Online コンテンツを集めたコレクションである [ArcGIS Living Atlas of the World](#) で公開されている「[指定緊急避難場所](#)」レイヤー、「[津波浸水想定](#)」レイヤー、「[洪水浸水想定区域](#)」レイヤーを使用します。



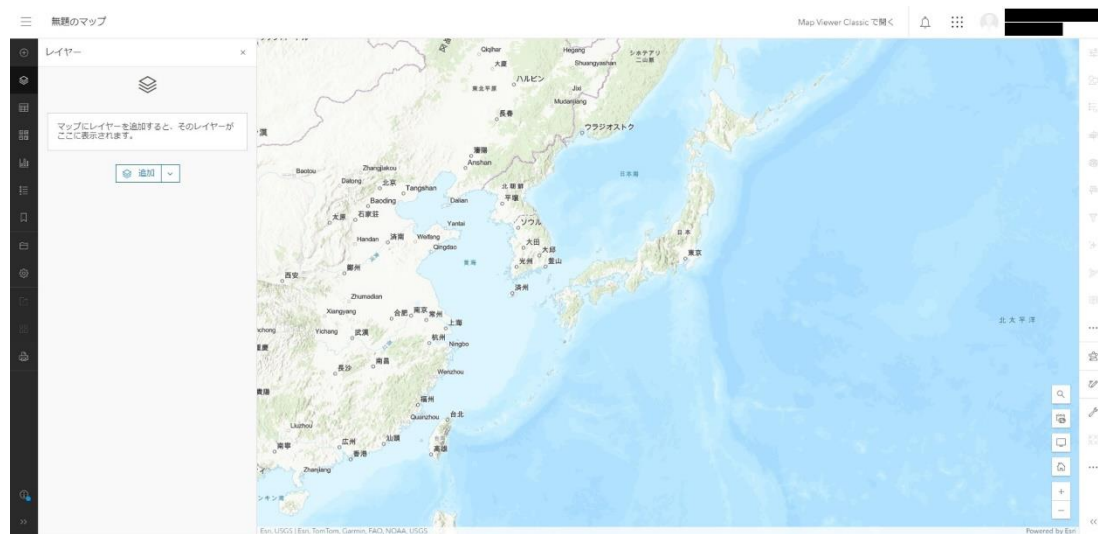
使用するレイヤーのデータ ソースや注意事項については、各レイヤーのリンク先のアイテム説明をご覧ください。

## ステップ 1: Map Viewer の起動

- ① ArcGIS Online に[サイン イン](#)します。
- ② ArcGIS Online ホーム画面のリボンから、[マップ] タブを選択します。



## ③ [Map Viewer] が表示されます。



このマップ上にレイヤーを追加して、Web アプリを作成します。



## ステップ 2: マップ レイヤーの追加

### ステップ 2-1: 指定緊急避難場所レイヤーの追加

はじめに、釧路市内の指定緊急避難場所を Web マップに追加します。

- ① [コンテンツ] ツールバーから [レイヤー] ウィンドウを開き、[追加] をクリックします。



- ② [レイヤーの追加] ウィンドウで、[マイ コンテンツ] → [Living Atlas] を選択します。



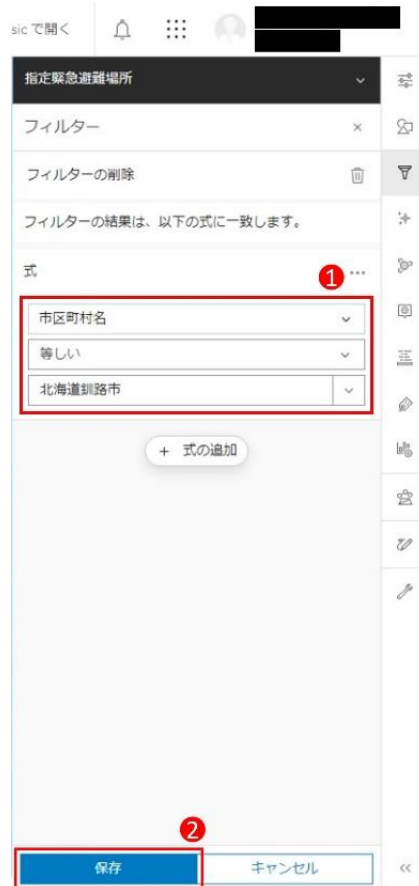
- ③ [レイヤーの検索] ボックスで「指定緊急避難場所」と検索します。
- ④ 「指定緊急避難場所」レイヤーの [追加] をクリックします。



- ⑤ [設定] ツールバーから [フィルター] ウィンドウを開き、[式の追加] をクリックします。



- ⑥ [式] のドロップダウン メニューから「市区町村名」「等しい」「北海道釧路市」をそれぞれ選択し、ウィンドウ下部の [保存] をクリックします。



以上で、釧路市内の指定緊急避難場所を Web マップに追加できました。



## ステップ 2-2: 津波浸水想定レイヤーおよび洪水浸水想定区域レイヤーの追加

指定緊急避難場所周辺の災害リスクを可視化するために、津波浸水想定と洪水浸水想定区域を Web マップに追加します。

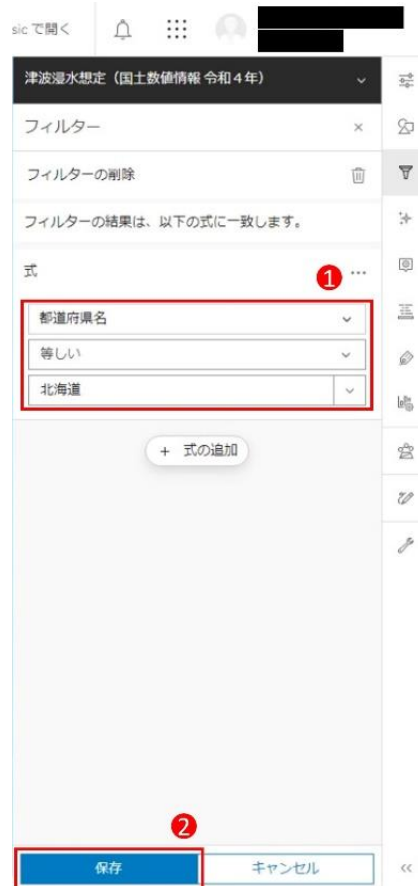
- ① [レイヤーの検索] ボックスで「津波浸水想定」と検索します。
- ② 「津波浸水想定 (国土数値情報 令和 4 年)」レイヤーの [追加] をクリックします。



- ③ [設定] ツールバーから [フィルター] ウィンドウを開き、[式の追加] をクリックします。



- ④ [式] のドロップダウン メニューから「都道府県名」「等しい」「北海道」をそれぞれ選択し、下部の [保存] をクリックします。



- ⑤ [レイヤーの検索] ボックスで「洪水浸水想定区域」と検索します。
- ⑥ 「洪水浸水想定区域 (解析用)」レイヤーの [追加] をクリックします。



以上で、津波浸水想定と洪水浸水想定区域のレイヤーを Web マップに追加できました。

## ステップ 2-3: レイヤーの整理

Web マップに追加した「洪水浸水想定区域」レイヤーに対して表示の切り替えと並べ替えをします。

- ① [レイヤーの追加] ウィンドウ上部にある [戻る] ボタンをクリックします。



- ② [レイヤー] ウィンドウで「洪水浸水想定区域 (解析用)」レイヤーの矢印をクリックして展開します。



- ③ 「計画規模」レイヤーの [可視性] をオフ、「想定最大規模」レイヤーの [可視性] をオンにします。
- ④ 「洪水浸水想定区域 (解析用)」レイヤーの矢印をクリックして格納します。



- ⑤ [ハンドルのドラッグ] を選択して、ドラッグ&ドロップで画像のように、上から「指定緊急避難場所」レイヤー、「洪水浸水想定区域 (解析用)」レイヤー、「津波浸水想定 (国土数値情報)」レイヤーになるように並べ替えます。

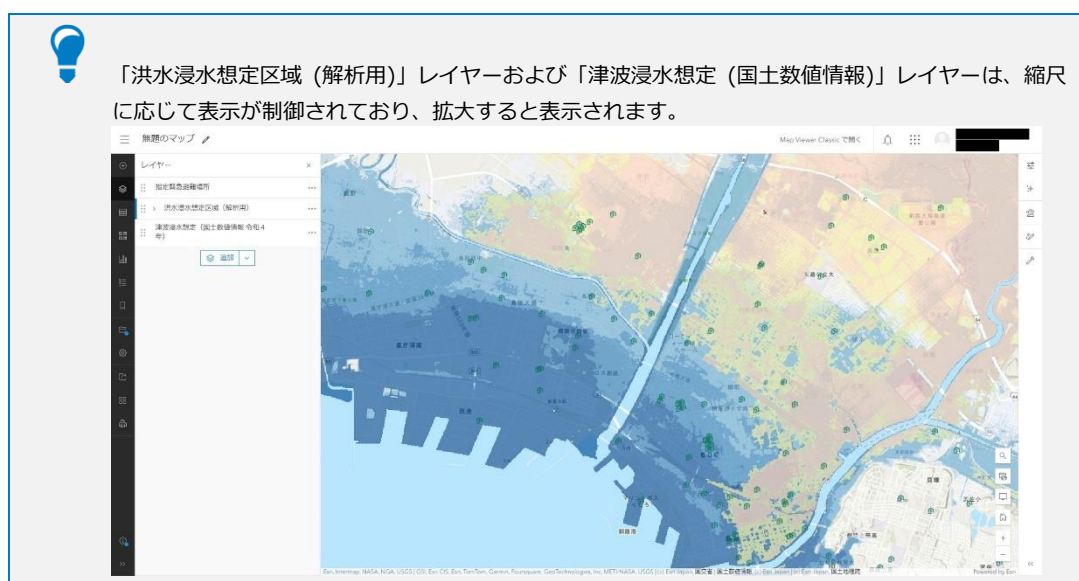


- ⑥ 「指定緊急避難場所」レイヤーの [オプション] → [ズーム] をクリックします。



以上で、Web マップに追加したレイヤーの整理ができました。

ここまでの操作で、Web マップには釧路市における指定緊急避難場所の位置だけではなく、津波や洪水のリスクも可視化されています。





## ステップ 3: Web マップの保存

作成した Web マップを保存します。

- ① [コンテンツ] ツールバーから [保存と開く] → [名前を付けて保存] をクリックします。



- ② [マップの保存] ダイアログが表示されたら、タイトルに「釧路市\_指定緊急避難場所」と記入し、[保存] をクリックします。

以上で、Web マップの保存ができました。

続いて、ArcGIS Experience Builder で Web アプリを作成するため、Web マップは開いたままにしておきます。



# 3

## Web アプリの作成

### 概要

- 本章の目的
- Web アプリの新規作成とマップ ウィジェットの編集
- マップ ウィジェットの追加
- Business Analyst ウィジェットの追加
- Web アプリの保存

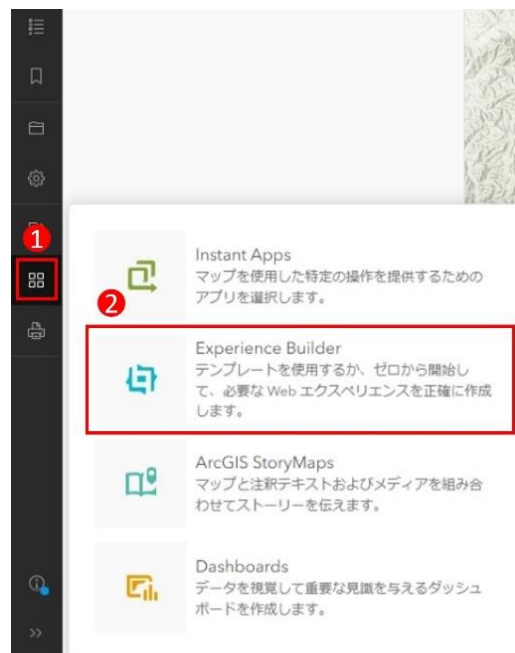
## 本章の目的

被災時に発生しうるニーズを可視化・分析し、その情報を様々な部署や取引先と共有するためのアプリを、ArcGIS Experience Builder を用いて作成します。

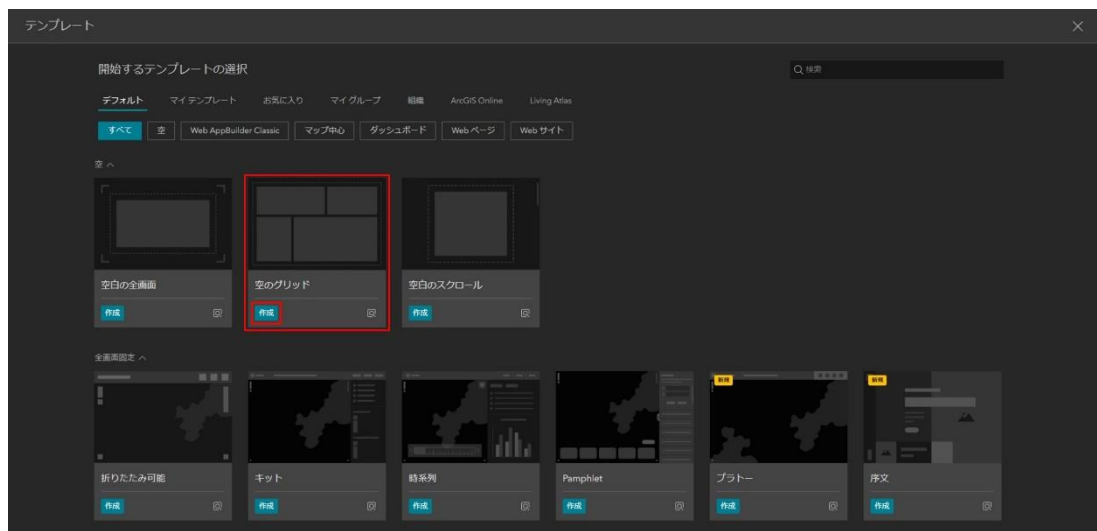
## ステップ 1: Web アプリの新規作成とマップ ウィジェットの編集

ArcGIS Experience Builder で Web アプリを作成し、アプリの画面の枠を準備します。

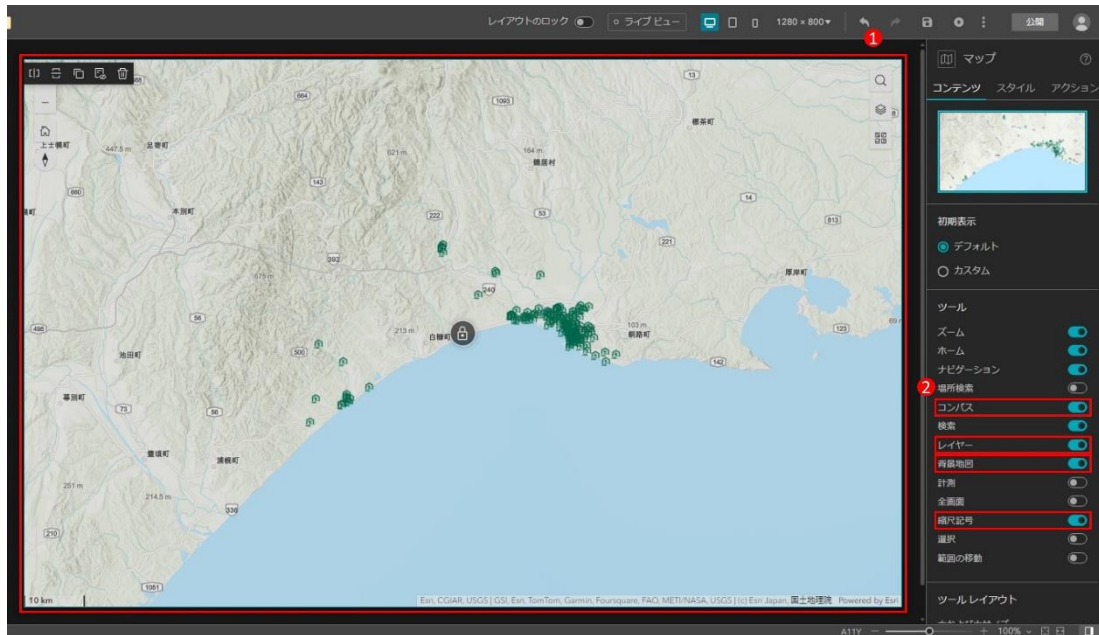
- ① [コンテンツ] ツールバーから、[アプリの作成] → [Experience Builder] を選択します。



- ② [空のグリッド] テンプレートの [作成] をクリックします。

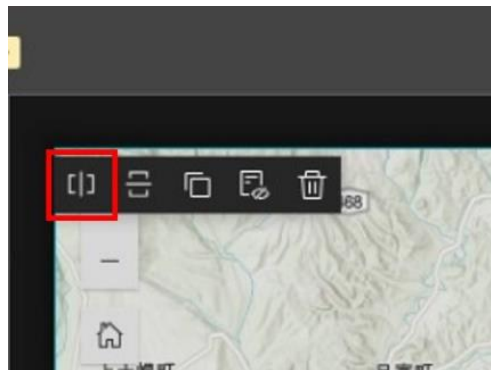


- ③ [マップ] ウィジェットをクリックし、[マップ] ウィンドウの [ツール] で、[コンパス]、[レイヤー]、[背景地図]、[縮尺記号] をオンにします。



[コンパス] は Web マップの北がどこにあるかを示すため、[レイヤー] は Web マップのレイヤーの詳細情報を確認するため、[背景地図] は任意の背景地図に変更するため、[縮尺記号] は Web マップの縮尺を示すためにそれぞれ設定します。

- ④ ツールバーの [横方向に分割] をクリックします。

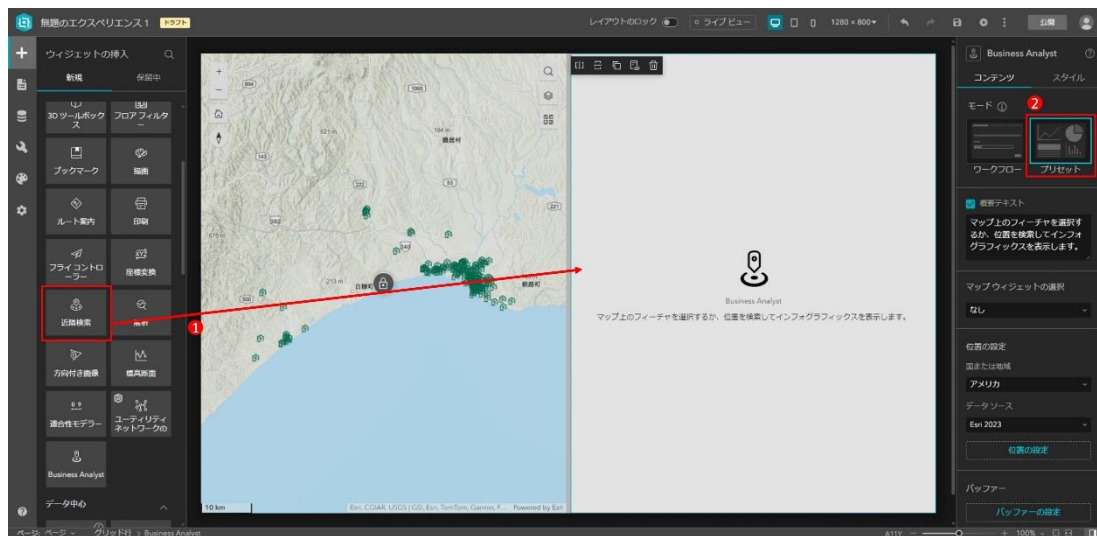


以上で、Web マップの設定と Web アプリ画面の枠の準備ができました。

## ステップ 2: Business Analyst ウィジェットの追加

作成中の Web アプリに [Business Analyst] ウィジェットを追加し、指定緊急避難場所周辺の人口分析ができるように編集します。

- ① [ウィジェットの挿入] ウィンドウから、[Business Analyst] ウィジェットをグリッドの右側にドラッグします。
- ② [Business Analyst] ウィンドウの [モード] で、[プリセット] を選択します。



- ③ [マップウィジェットの選択] でドロップダウン リストをクリックし、[マップ] を選択します。



- ④ [位置の設定] のうち、[国または地域] で [日本] 、[データソース] で [Esri ジャパン] をそれぞれ選択します。





- ⑤ [バッファー] で [バッファーの設定] をクリックします。
- ⑥ [徒歩時間] を選択して [適用] をクリックします。

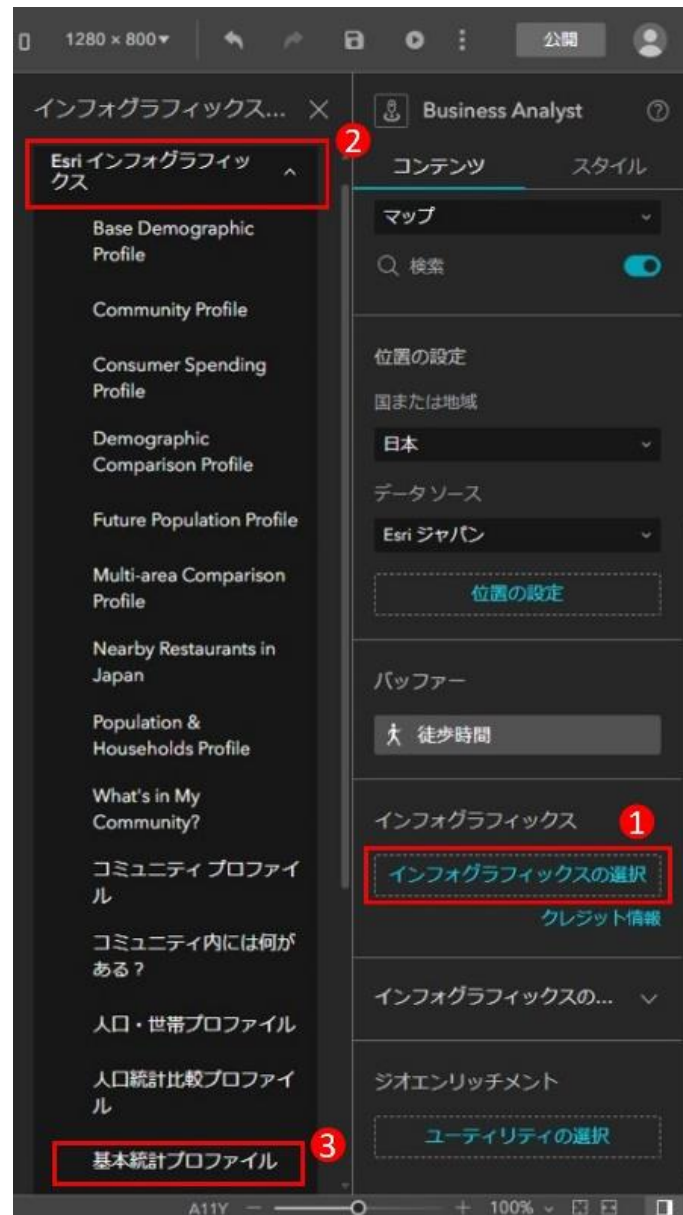


特に津波からの避難については、渋滞の発生による逃げ遅れを防ぐため、徒歩での避難が推奨されています。



徒歩時間の設定については、奥村ほか（2020）を参考に設定しています。  
 奥村与志弘・石川雄規・山田周斗（2020）「日常の徒歩圏内距離と避難場所までの距離感の関係」、  
 土木学会論文集B2（海岸工学）、76（2）、I\_1279-I\_1284。

- ⑦ [インフォグラフィックス] で [インフォグラフィックスの選択] をクリックします。
- ⑧ [Esri インフォグラフィックス] → [基本統計プロファイル] を選択します。



- ⑨ [インフォグラフィックスの設定] で [マップをクリックして実行]、[画像のエクスポート]、[ダイナミック HTML のエクスポート]、[Excel のエクスポート]、[PDF のエクスポート] をオフにします。



[マップをクリックして実行] をオフにすることで、[指定緊急避難場所] フィーチャをクリックしたときのみバッファとインフォグラフィックスを作成できます。



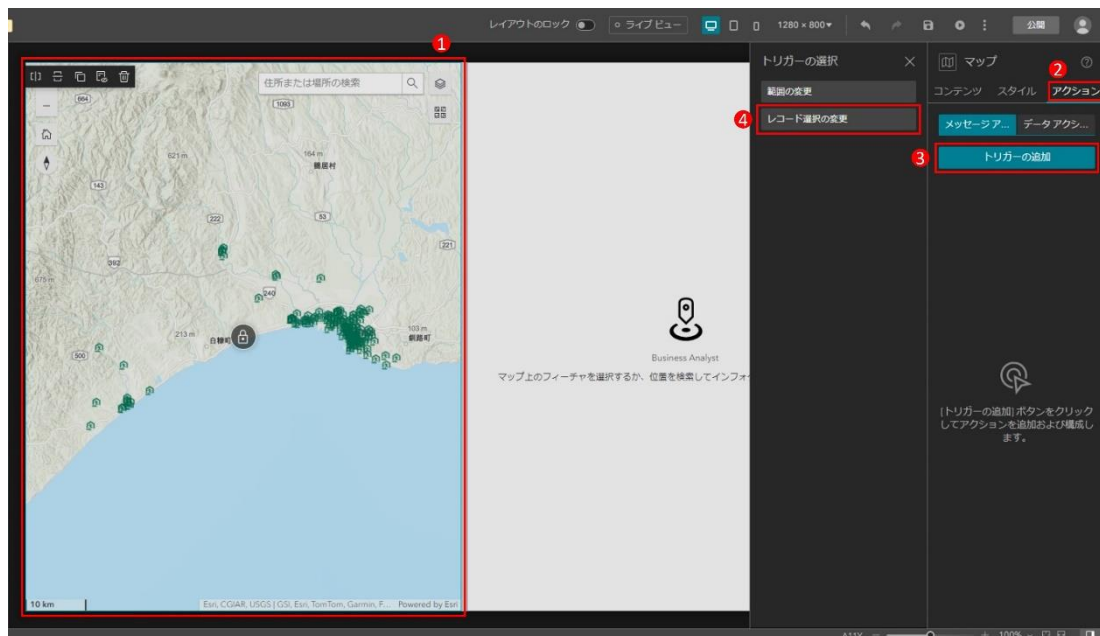
[画像のエクスポート]、[ダイナミック HTML のエクスポート]、[Excel のエクスポート]、[PDF のエクスポート] は、インフォグラフィックスのエクスポート方式に関するオプションです。各種エクスポートにはクレジットを消費します。今回は Web アプリを作成して共有することが目的であるため、余分にクレジットを消費しないようにオフにします。

[クレジットの概要—ArcGIS Online ヘルプ | ドキュメント](#)

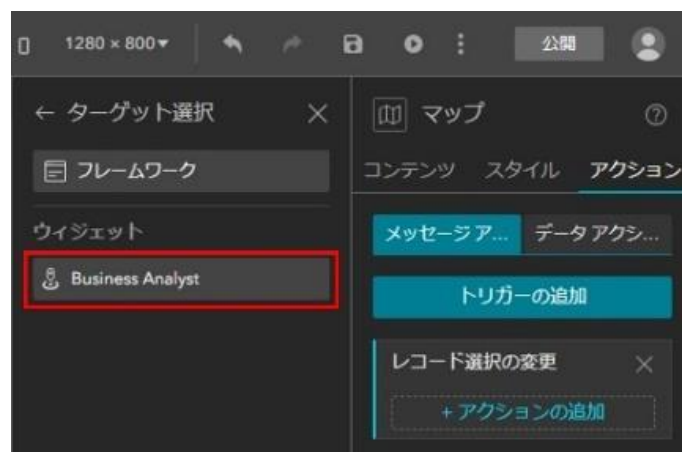
以上で、アプリ上の Web マップをクリックすると [Business Analyst] ウィジェットが動作するように設定ができました。

続いて、Web マップのフィーチャを選択した際に [Business Analyst] ウィジェットが動作するように設定します。

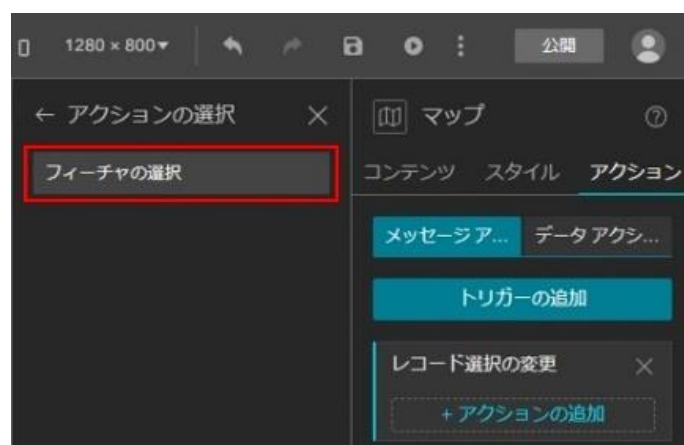
- ⑩ [マップ] ウィジェットをクリックし、[マップ] ウィンドウで [アクション] タブをクリックします。
- ⑪ [メッセージアクション] タブで [トリガーの追加] をクリックします。
- ⑫ [トリガーの選択] ウィンドウで [レコード選択の変更] をクリックします。



- ⑬ [ターゲット選択] ウィンドウの [ウィジェット] で [Business Analyst] を選択します。



- ⑭ [アクションの選択] ウィンドウで [フィーチャの選択] をクリックします。



以上で、Web アプリが作成できました。

この Web アプリを使用することで、任意の指定緊急避難場所を選択し、その場所から徒歩 5 分 / 10 分 / 15 分圏の「徒歩時間」バッファーと、それぞれの「徒歩時間」バッファーの範囲内における人口統計のインフォグラフィックスを作成できます。

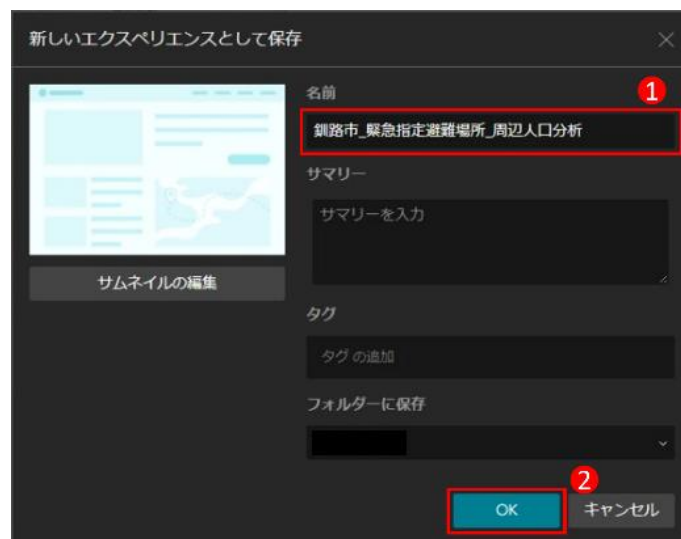
## ステップ 3: Web アプリの保存

作成した Web アプリを保存します。

- ① リボンの [その他] → [名前を付けて保存] をクリックします。



- ② [新しいエクスペリエンスとして保存] ダイアログが表示されたら、[名前] に「釧路市\_指定緊急避難場所\_周辺人口分析」と入力し、[OK] をクリックします。





# 4

## Web アプリの公開と表示

### 概要

- 本章の目的
- Web アプリの公開と ArcGIS Experience Builder からの表示
- ホーム画面から Web アプリを表示

## 本章の目的

作成した Web アプリを公開し、公開した Web アプリを表示します。

## ステップ 1: Web アプリの公開と ArcGIS Experience Builder からの表示

作成した Web アプリを公開し、ArcGIS Experience Builder から表示します。

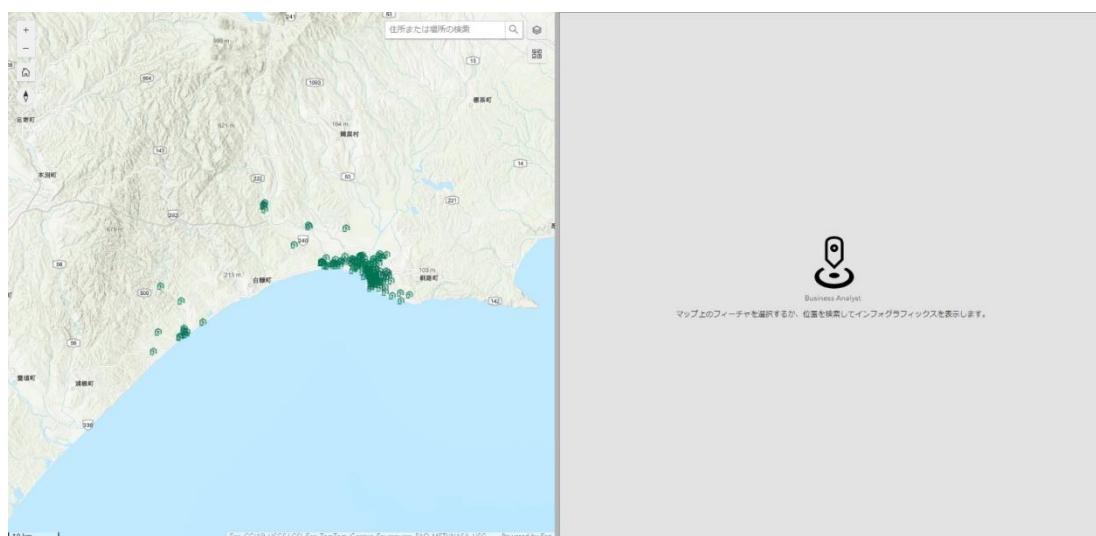
- ① リボンの [公開] ボタンをクリックします。



- ② [その他] → [公開したアイテムの表示] をクリックします。



- ③ 作成した Web アプリが表示されます。





## ステップ 2: ホーム画面から Web アプリを表示

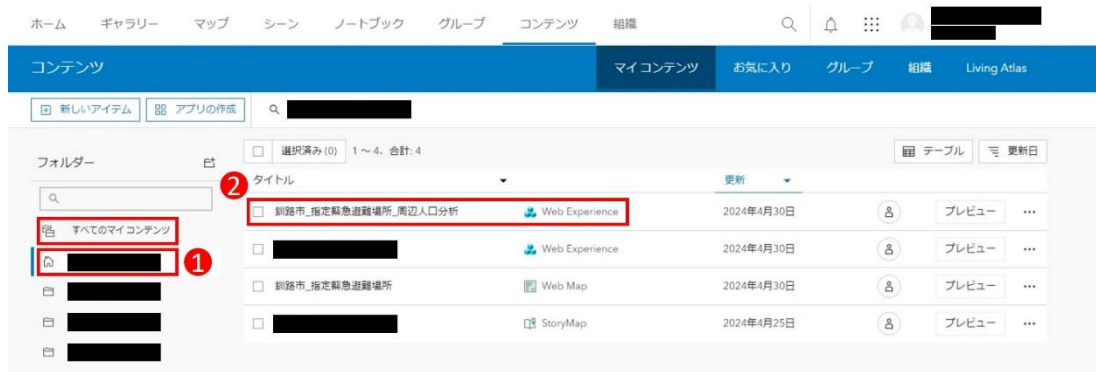
公開した Web アプリを ArcGIS Experience Builder を閉じた後に操作する場合は、以下の流れで Web アプリを開くことができます。

- ① ホーム画面から [コンテンツ] タブをクリックします。



- ② [フォルダー] → [すべてのマイ コンテンツ] から、ユーザー ネームの書かれたタブをクリックします。

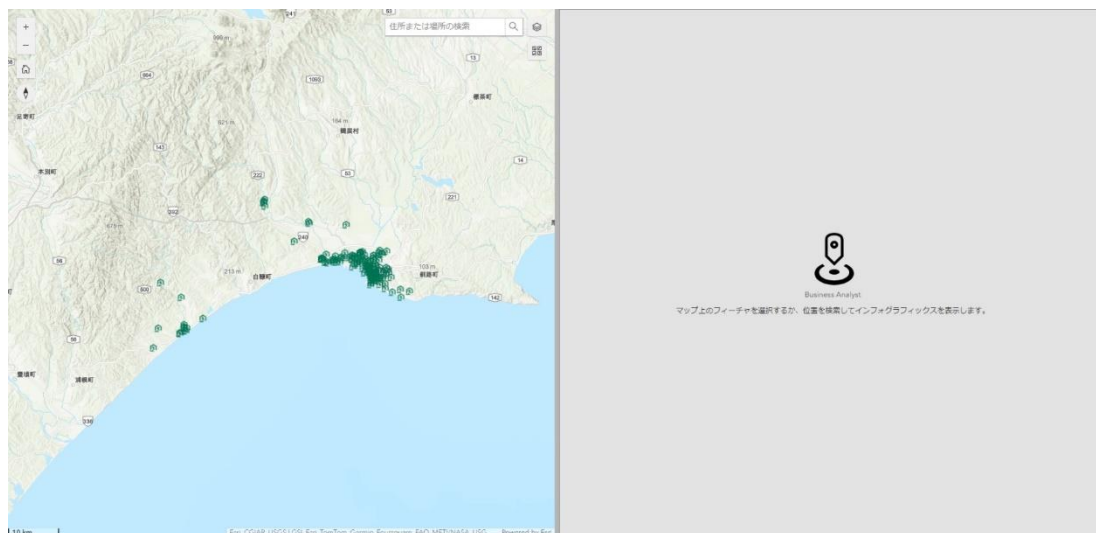
- ③ 作成した Web アプリをクリックします。



## ④ [表示] をクリックします。



## ⑤ 作成した Web アプリが表示されます。



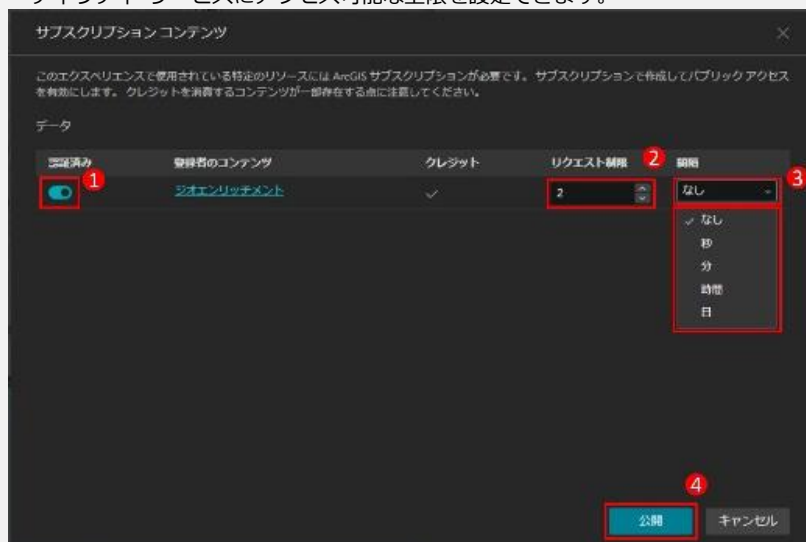
作成した Web アプリを組織内で共有する場合は、[こちら](#)をご覧ください。



Business Analyst ウィジェットの [Business Analyst] ウィンドウで、[ジオエンリッチメント] から [ユーティリティの選択] → [ジオエンリッチメント] をクリックすることで、ジオエンリッチメント ユーティリティ サービスを追加できます。ジオエンリッチメント ユーティリティ サービスを追加すると、Business Analyst ウィジェットの使用に必要な権限のない ArcGIS ユーザーとアプリを共有することができます。



[公開] ボタンをクリックすると、サブスクリプションを通じてアクセスを有効化するように求められるため、[認証済み] をオンにします。[リクエスト制限] や [間隔] では、ジオエンリッチメント ユーティリティ サービスにアクセス可能な上限を設定できます。



[Business Analyst ウィジェット—ArcGIS Experience Builder | ドキュメント](#)

[保存、プレビュー、公開—ArcGIS Experience Builder | ドキュメント](#)



# 5

## Web アプリの操作

### 概要

- 本章の目的
- Web アプリの操作

## 本章の目的

作成した Web アプリを操作します。

なお、本章で行う以下の操作では、クレジットを消費します。

- 「徒歩時間」バッファの作成 (1.5 クレジット)  
「徒歩時間」バッファを含む到達圏の作成には、1 件あたり 0.5 クレジットを消費します。本チュートリアルでは、「徒歩時間」バッファの作成を 1 回実行すると 3 重のバッファが作成されます。この場合、「徒歩時間」バッファの作成を 3 件実行したとみなされ、1.5 クレジットを消費します。
- インフォグラフィックスの表示 (0.01 クレジット)  
インフォグラフィックスの表示には、1,000 回あたり 10 クレジットを消費します。



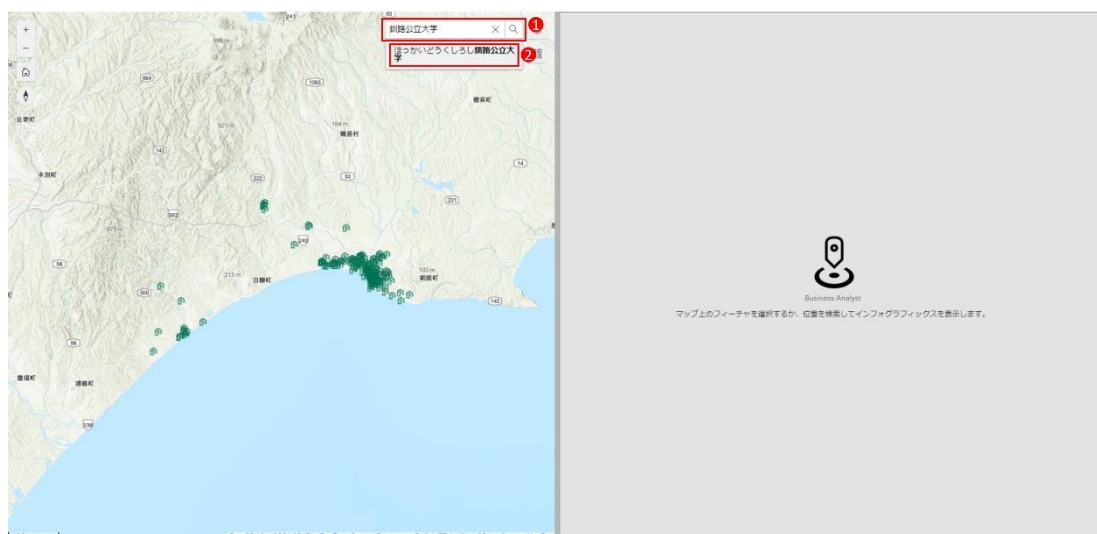
クレジットに関する詳細は以下の資料をご参照ください。

[クレジットの概要—ArcGIS Online ヘルプ | ドキュメント](#)

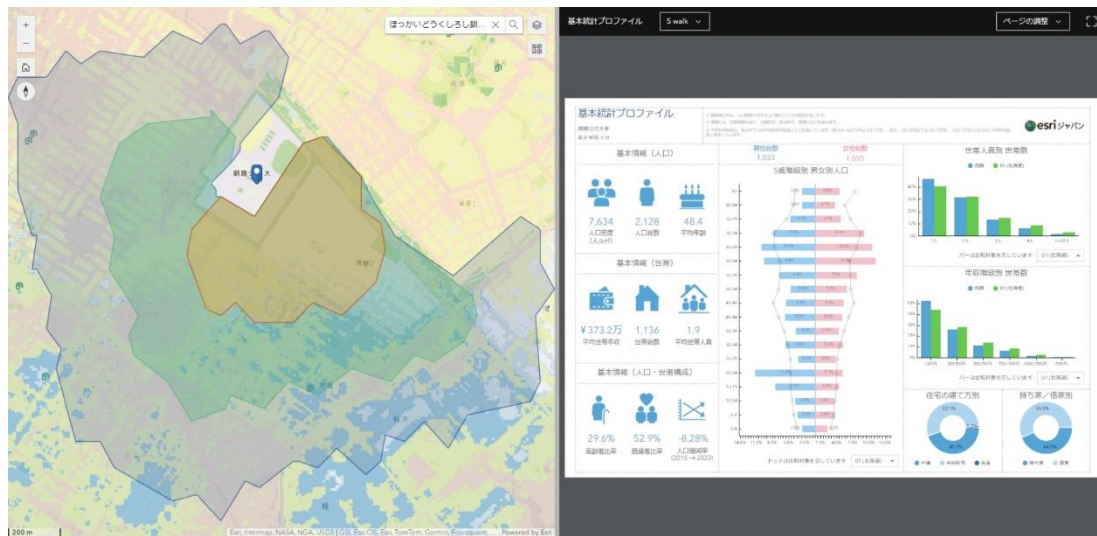
## ステップ 1: Web アプリの操作

Web アプリを操作して、任意の指定緊急避難場所から「徒歩時間」バッファとインフォグラフィックスを作成します。ここでは、津波浸水想定と洪水浸水想定 of いずれも高さが低い釧路公立大学を対象とします。

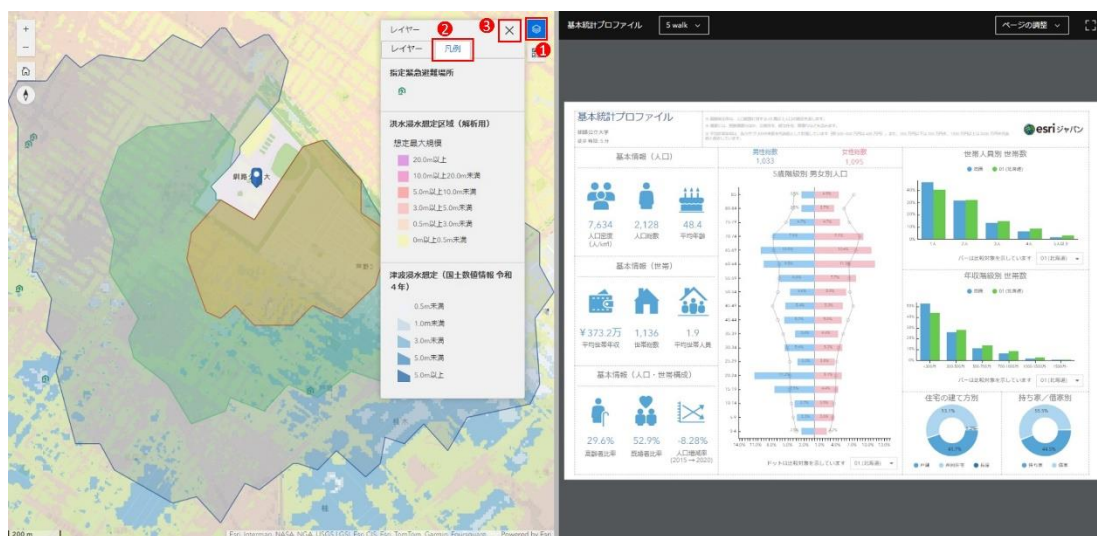
- ① [マップ] ウィジェットの [住所または場所の検索] バーで「釧路公立大学」と入力します。
- ② 表示された候補をクリックします。



- ③ 徒歩 5 分 / 10 分 / 15 分の「徒歩時間」バッファと 5 分圏内の人口統計を示すインフォグラフィックスが作成されます。

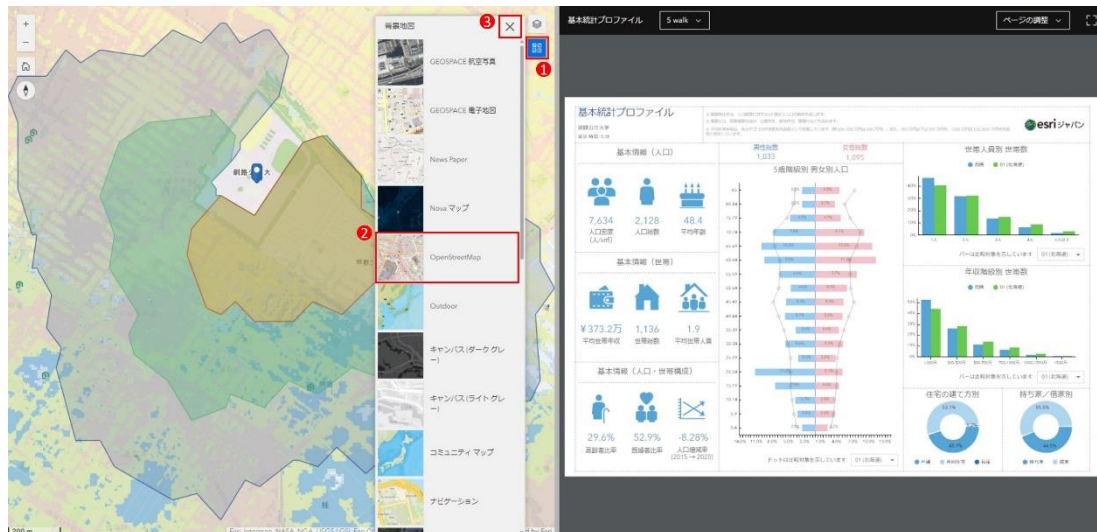


- ④ [レイヤー] ボタンをクリックし、表示されているレイヤーの凡例を確認します。
- ⑤ 凡例を確認したら、[×] ボタンをクリックしてウィンドウを閉じます。

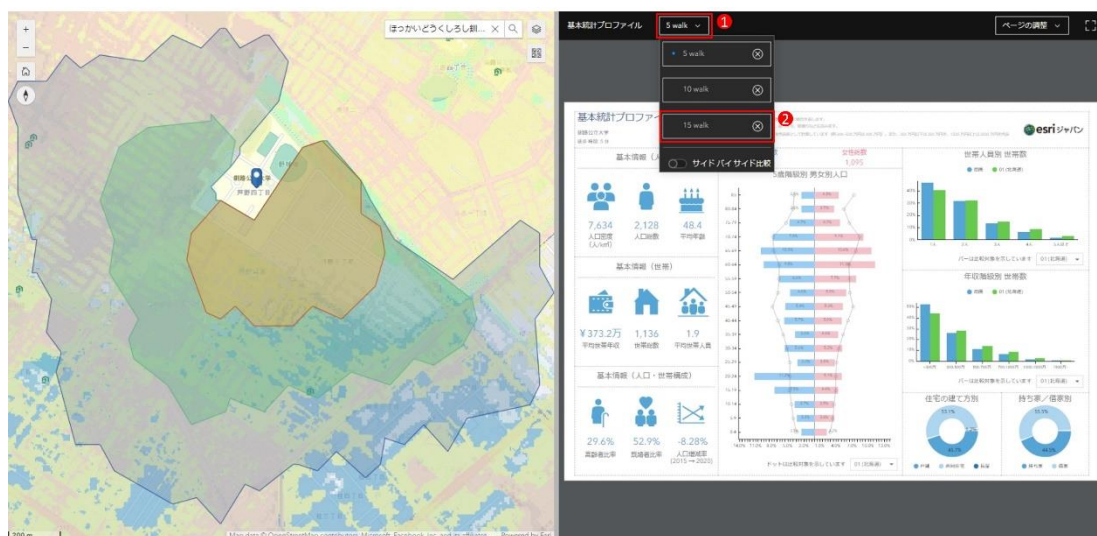




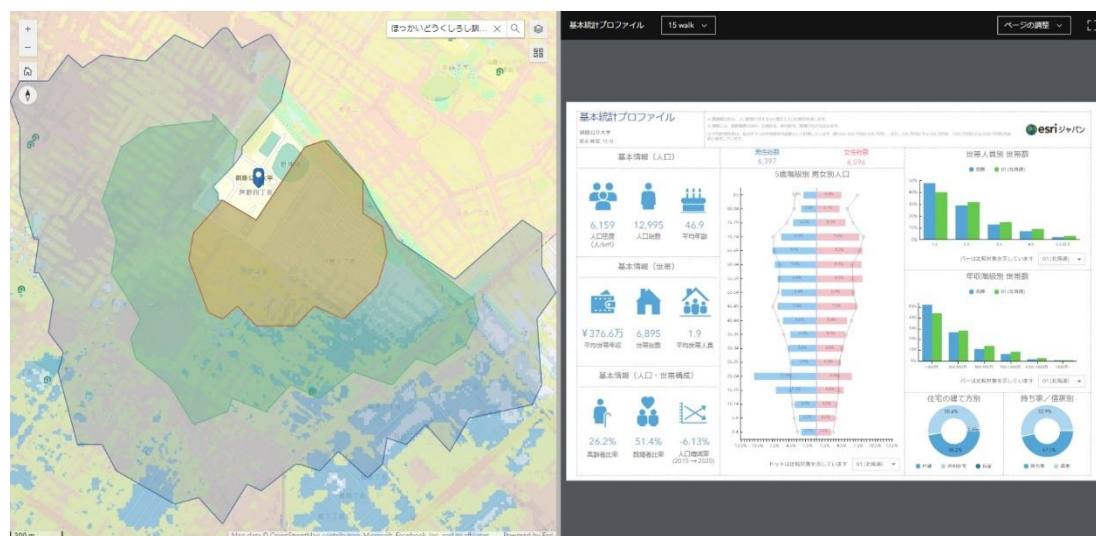
- ⑥ [背景地図] ボタンをクリックし、背景地図を変更します。ここでは、街区をより見やすくするために [OpenStreetMap] を選択します。
- ⑦ [×] ボタンをクリックしてウィンドウを閉じます。



- ⑧ 釧路公立大学は指定避難施設に指定されていることから、広域から避難する住民がいると考えられます。そこで、徒歩時間のドロップダウン リストから、インフォグラフィックスを徒歩 15 分圏内で統計したものに切り替えます。



## ⑨ 徒歩 15 分圏内のインフォグラフィックスが表示されます。



「指定緊急避難場所」フィーチャをクリックして「徒歩時間」バッファとインフォグラフィックスを作成することもできます。

インフォグラフィックスより、釧路公立大学から徒歩 15 分圏内には一人世帯が多いことがわかります。このことから、発災時に住民同士で助け合って避難するよう呼び掛けることが必要になりそうです。また、大学から 15 分圏内には、10 代後半から 20 代前半の人口が多いことがわかります。このことから、カロリー消費量が多い若者向けに食料備蓄を多めにする必要があります。

このように、作成されたインフォグラフィックスを分析することで、その指定緊急避難場所にどのようなニーズが発生しうるかを分析できます。



- 本書に記載されている内容は予告無く変更される場合があります。
- 本書は、個人的かつ非商業的な目的に限り使用することができます。
- 本書の一部または全部を著作権法の定める範囲を超え、無断で転用または複製することを禁じます。
- 本書の内容についての電話でのお問い合わせは、お受けしておりません。
- ArcGIS、ArcMap、ArcToolbox、Esri、ArcGIS ロゴ、Esri globe ロゴは、米国Esri 社の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft、Office、Access、Excel、Microsoft.NET Framework および Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国その他の国における登録商標または商標です。
- Python は、Python Software Foundation の登録商標です。
- JavaScript は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の商標または登録商標です。
- Adobe、Acrobat Reader は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他の会社名、製品、サービス名、ロゴマークなどは該当する各社の商号・商標または登録商標です。

書名	: ArcGIS® Experience Builder: Business Analyst ウィジェット プリセット モード
発行日	: 2025 年 7 月 14 日 第 3 版
著作	: ESRIジャパン株式会社
発行	: ESRIジャパン株式会社 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-1 塩崎ビル
電話	: 03-3222-3941
FAX	: 03-3222-3946
URL	: <a href="https://www.esri.com/">https://www.esri.com/</a>